



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月12日

上場会社名 デリカフーズホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3392 URL <https://www.delica.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大崎 善保
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役COO (氏名) 仲山 純之 TEL 03-3858-1037
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
2026年3月期第3四半期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	46,851	7.7	1,710	875.4	1,751	654.7	1,124	798.9
2025年3月期第3四半期	43,504	10.6	175	△76.0	232	△71.3	125	△80.2

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 1,173百万円(—%) 2025年3月期第3四半期 61百万円(△91.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2026年3月期第3四半期	円 錢 69.30	円 錢 —
2025年3月期第3四半期	7.67	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2026年3月期第3四半期	百万円 29,389	百万円 10,033	% 34.1
2025年3月期	26,640	9,030	33.9

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 10,033百万円 2025年3月期 9,030百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 錢 —	円 錢 0.00	円 錢 —	円 錢 12.00	円 錢 12.00
2026年3月期	—	0.00	—	—	—
2026年3月期(予想)	—	—	—	22.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
通期	百万円 64,000	% 8.9	百万円 1,950	% 142.2	百万円 2,100	% 137.6	百万円 1,370	% 152.8

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有
新規 1社 (社名) 農業法人デリカファーム株式会社 、除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年3月期 3 Q	16,372,000株	2025年3月期	16,372,000株
② 期末自己株式数	2026年3月期 3 Q	128,328株	2025年3月期	168,605株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年3月期 3 Q	16,224,193株	2025年3月期 3 Q	16,304,255株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 有(任意)
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項
(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書	10
その他	12
(1) 最近における四半期毎の業績推移	12
(2) 部門別売上高の状況	12

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善等により、緩やかな回復傾向を続けました。その一方で、諸物価の高止まり、米国の通商政策や為替の円安基調等の影響もあり、景気の先行きは依然として不透明な状況にあります。

当社グループの主要顧客である外食産業でも、人流の回復やインバウンド消費の拡大を背景に需要は堅調な推移を続けていますが、慢性的な人手不足に加え、物流費や人件費の上昇、物価高に起因する消費者の節約志向、食料品の消費税率見直しの動向など、経営環境は予断を許さない状況が続いています。

こうした中、当社は、青果物加工流通分野において野菜の価値を追求し、未来に向けた「持続可能な農業」と「食を通じた健康増進」を実現する付加価値創造企業として、数々の施策を重ねておられます。昨年5月に発表いたしました「第五次中期経営計画 keep on trying 2027」につきましては、基本方針である「各種ポートフォリオの改善」、「青果物サプライチェーンの構造変革」、「研究部門・開発部門への投資拡大」を実現すべく、各種の施策を推し進めております。

当第3四半期連結累計期間における売上高は、外食産業を取り巻く環境が厳しさを増す中で第2四半期以降に若干の鈍化傾向が見られたものの、引き続き着実に増加しました。主業である青果物流通事業を担うデリカフーズ㈱において、取引先の裾野拡大の継続的な取り組み、物流部門を絡めた提案による新たな取引先ニーズへの対応を進めた他、一般消費者向けミールキットを手掛ける楽彩㈱を中心に、B to C事業の拡充にも注力しました。また、物流子会社であるエフエスロジスティックス㈱は、自力での新規開拓にも努め、グループ外売上の拡大において大きな成果を上げました。以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は、第3四半期累計としては過去最高の46,851百万円（前年同期比7.7%増）となりました。

一方、損益面では、一部品目で第2四半期以降に前期同様の野菜価格の高騰はあったものの、今年度から始まった本部集中仕入制度の奏功もあり調達コスト・在庫の厳格管理、廃棄ロスの削減が進んだこと、人員配置・物流の最適化など現場オペレーションの効率化を一層図ったことに加え、物流子会社が収益性の高い新規取引先の獲得を進め連結ベース利益の底上げに寄与したことなどから、第3四半期も引き続き着実に利益を計上しました。以上から、当第3四半期連結累計期間の営業利益は1,710百万円（前年同期比875.4%増）、経常利益は1,751百万円（前年同期比654.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,124百万円（前年同期比798.9%増）といずれも大幅な増益となり、過去最高を更新しました。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

流動資産は、前連結会計年度末に比べて21.7%増加し、12,891百万円となりました。これは、主として現金及び預金が851百万円、売掛金が1,066百万円増加したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて2.8%増加し、16,498百万円となりました。これは、主として有形固定資産の「その他」が485百万円増加したことなどによります。

この結果、資産合計は、前連結会計年度末に比べて10.3%増加し、29,389百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて31.3%増加し、11,020百万円となりました。これは、主として買掛金が304百万円、短期借入金が1,550百万円増加したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて9.6%減少し、8,335百万円となりました。これは、主として長期借入金が904百万円減少したことなどによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて9.9%増加し、19,355百万円となりました。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて11.1%増加し、10,033百万円となりました。これは、主として利益剰余金が929百万円増加したことなどによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の業績及び今後の見通しを検討した結果、現時点におきまして2025年10月10日発表の業績予想に変更はありません。

なお、今後業績予想に修正の必要が生じた場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,716,137	4,567,265
売掛金	6,155,637	7,221,738
商品及び製品	331,149	492,434
仕掛品	16,207	22,141
原材料及び貯蔵品	166,516	257,793
その他	219,325	333,830
貸倒引当金	△10,327	△4,181
流動資産合計	10,594,645	12,891,023
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,110,848	7,895,136
土地	3,914,760	3,917,960
その他（純額）	2,624,295	3,109,348
有形固定資産合計	14,649,904	14,922,446
無形固定資産		
その他	64,364	55,021
無形固定資産合計	64,364	55,021
投資その他の資産		
その他	1,333,815	1,528,953
貸倒引当金	△1,762	△7,937
投資その他の資産合計	1,332,052	1,521,015
固定資産合計	16,046,322	16,498,483
資産合計	26,640,967	29,389,507

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,059,851	3,364,152
短期借入金	650,000	2,200,000
1年内返済予定の長期借入金	1,587,727	1,721,258
未払法人税等	134,805	530,601
未払金	2,536,739	2,564,211
賞与引当金	163,290	45,838
その他	258,912	594,438
流動負債合計	8,391,326	11,020,499
固定負債		
長期借入金	8,116,038	7,211,506
退職給付に係る負債	211,378	224,474
資産除去債務	541,229	545,314
その他	350,488	354,062
固定負債合計	9,219,134	8,335,357
負債合計	17,610,461	19,355,856
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,772,363	1,772,363
資本剰余金	2,588,508	2,595,360
利益剰余金	4,454,159	5,384,034
自己株式	△71,974	△54,780
株主資本合計	8,743,056	9,696,977
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	261,487	330,384
退職給付に係る調整累計額	25,962	6,288
その他の包括利益累計額合計	287,449	336,672
純資産合計	9,030,506	10,033,650
負債純資産合計	26,640,967	29,389,507

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

	(単位:千円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	43,504,677	46,851,190
売上原価	33,224,328	34,568,033
売上総利益	10,280,349	12,283,157
販売費及び一般管理費	10,105,016	10,573,002
営業利益	175,332	1,710,155
営業外収益		
受取利息	2,012	6,573
受取配当金	4,587	5,042
物品売却益	22,150	23,861
受取賃貸料	42,449	39,307
助成金収入	19,048	13,636
その他	38,939	34,459
営業外収益合計	129,187	122,880
営業外費用		
支払利息	56,697	75,348
その他	15,798	6,577
営業外費用合計	72,495	81,926
経常利益	232,024	1,751,109
特別利益		
固定資産売却益	1,999	1,025
投資有価証券売却益	—	52
特別利益合計	1,999	1,077
特別損失		
固定資産売却損	7,399	—
固定資産除却損	3,365	24,435
解約違約金	12,000	—
特別損失合計	22,765	24,435
税金等調整前四半期純利益	211,258	1,727,751
法人税等	86,177	603,435
四半期純利益	125,081	1,124,316
親会社株主に帰属する四半期純利益	125,081	1,124,316

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	125,081	1,124,316
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△72,459	68,896
退職給付に係る調整額	9,223	△19,673
その他の包括利益合計	△63,235	49,223
四半期包括利益	61,845	1,173,539
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	61,845	1,173,539
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	青果物事業	物流事業	研究開発・ 分析事業	持株会社	計		
売上高							
顧客との契約から生じる収益	42,847,343	599,178	58,156	—	43,504,677	—	43,504,677
外部顧客への売上高 セグメント間の内部売上高又は振替高	42,847,343	599,178	58,156	—	43,504,677	—	43,504,677
計	42,857,181	3,636,855	64,885	692,622	47,251,545	△3,746,867	43,504,677
セグメント利益	199,260	108,756	6,964	112,436	427,418	△195,394	232,024

(注) 1 セグメント利益の調整額△195,394千円は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	青果物事業	物流事業	研究開発・ 分析事業	持株会社	計		
売上高							
顧客との契約から生じる収益	45,939,511	876,014	35,664	—	46,851,190	—	46,851,190
外部顧客への売上高 セグメント間の内部売上高又は振替高	45,939,511	876,014	35,664	—	46,851,190	—	46,851,190
計	45,947,793	4,041,903	53,713	865,948	50,909,359	△4,058,168	46,851,190
セグメント利益又は損失(△)	1,611,669	122,368	△10,528	235,823	1,959,332	△208,223	1,751,109

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△208,223千円は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	872,349 千円	932,510 千円

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2026年2月12日

デリカフーズホールディングス株式会社

取締役会 御中

南青山監査法人

東京都港区

代表社員
業務執行社員

公認会計士 桂川 修一

代表社員
業務執行社員

公認会計士 原田 辰也

監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられているデリカフーズホールディングス株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2025年10月1日から2025年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2025年4月1日から2025年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記の期中レビュー報告書の原本は当社(四半期決算短信提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータ及びHTMLデータは期中レビューの対象には含まれていません。

その他

(1) 最近における四半期毎の業績推移

2026年3月期(連結)

(単位:千円)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
売上高	15,154,190	15,655,998	16,041,001	
営業利益	941,945	286,878	481,331	
経常利益	955,399	303,254	492,455	
親会社株主に帰属する四半期純利益	647,329	194,731	282,255	
1株当たり四半期純利益	39.95円	12.00円	17.35円	
総資産	28,263,621	28,664,036	29,389,507	
純資産	9,506,317	9,741,844	10,033,650	
1株当たり純資産	586.69円	599.73円	617.70円	

2025年3月期(連結)

(単位:千円)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
売上高	13,606,629	14,449,416	15,448,631	15,257,902
営業利益又は損失(△)	32,659	△144,258	286,931	630,301
経常利益又は損失(△)	54,179	△128,043	305,887	652,191
親会社株主に帰属する四半期純利益又は損失(△)	19,104	△85,480	191,457	416,932
1株当たり四半期純利益又は損失(△)	1.17円	△5.24円	11.73円	25.64円
総資産	27,862,016	27,701,735	29,022,340	26,640,967
純資産	8,497,893	8,465,175	8,642,757	9,030,506
1株当たり純資産	521.89円	518.59円	529.47円	557.32円

(2) 部門別売上高の状況

	2025年3月期 第3四半期 (自 2024年4月1日) (至 2024年12月31日)		2026年3月期 第3四半期 (自 2025年4月1日) (至 2025年12月31日)		比較増減 (千円)	比較増減 (%)
	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)		
カット野菜部門	18,427,619	42.3	20,365,801	43.5	1,938,182	10.5
ホール野菜部門	17,430,532	40.1	18,578,272	39.6	1,147,739	6.6
その他部門	7,646,525	17.6	7,907,116	16.9	260,590	3.4
合 計	43,504,677	100.0	46,851,190	100.0	3,346,512	7.7